

ちけん 治験管理室便り

NO.2

平成 22 年 7 月 発行

皆さま、こんにちは！ 春に“治験管理室便り創刊号”を配信してから、もう3ヶ月ほど経ちました。そろそろ海山の恋しい季節となりましたが、お元気でお過ごしでしょうか？ 創刊号でお知らせしましたように“治験管理室便り”NO.2 をお届けします。

NO.2号の“テーマ“は、“**どうして治験をするの？**” **です。**



イラスト:厚生労働HPより引用

病院で使われている医療用医薬品は、製薬会社の研究者や医師が「病気の原因」について詳しく研究し、様々な実験で選別され、試験の結果、病気に対しての効果が期待でき、大きな副作用がないと確認された「くすりのもと」は、『くすりの候補』となり、動物を使って安全に使えるかどうかを確認します。

しかしながら、人と動物では身体のしくみが異なるところがあり、『くすりの候補』によっては、動物では見られなかった思わぬ副作用が人に現れることがあります。ですから、**人でさらに安全性、有効性や適切な使用量について慎重に確認していく必要があります。**「治験」は、まだ治療薬のない病気に対する薬やより効果が高く副作用の少ない薬を開発するために、**なくてはならない大切な過程**なのです。

「新薬の候補物質」が有効性や安全性の試験を繰り返し 10 数年という長い間を経て「新薬」になる確率は、“20,000分の1”とされています。



～～～< 治験管理室メンバーのご紹介 >～～～

※メンバーのコメントは、次頁にあります。ご覧さ

い。



現在、病院で使用しているほとんどの医療用薬品は、治験をして使用できるようになったもの

です。



次回号のテーマは、“ 「くすり」 は、どうやってできるの？ ”を予定しています。

～～く 治験管理室メンバーから 皆様へ >～～

<p>～飯島薬剤科長:事務局長～ 新薬誕生に立ち会える喜びを感じます。</p>	<p>～原田臨床検査技師長/CRC兼任～ 治験は治療に繋がる研究の一分野で、チーム医療のひな形とも言えます。治験管理室と臨床検査科との窓口として毎週治験ミーティングに参加しています。検査科内では外部委託検査に精通している技師を配置し円滑な対応を心掛けています。(町中のスナップ写真が趣味のJAZZ親父です。)</p>	
<p>～田島副薬剤科長:事務局次長～ 病気の苦しみが少しでも軽減できるよう新薬の誕生に協力していきます。</p>	<p>～長野業務班長:事務局次長～ 製薬会社、医療機関、治験協力者のパイプ役となって、治験業務がスムーズに行われるよう事務的サポート頑張ります。</p>	<p>～芦谷副看護師長/CRC～ 治験1年生です。宜しくお願いします。病院内のあちこちに”ちけん君”がいます。探してくださいね。</p>
<p>～三川治験主任:事務局/CRC～ 室長をはじめいいメンバーに恵まれ仲よく仕事をさせていただいて</p>	<p>～川邊治験薬剤師/CRC兼任～ 患者様に安心して参加もらえるよう心がけます。</p>	<p>～黒坂看護師:事務局/CRC～ 治験という言葉と出会い、この仕事に就きました。患者様へ1日でも早く、新しいお薬</p>

